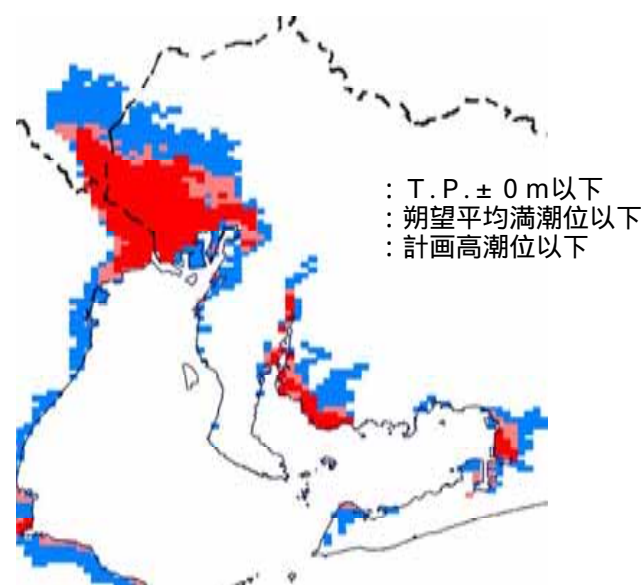


愛知・名古屋の地域特性（愛知県）

愛知県の地域特性

1. ゼロメートル地帯

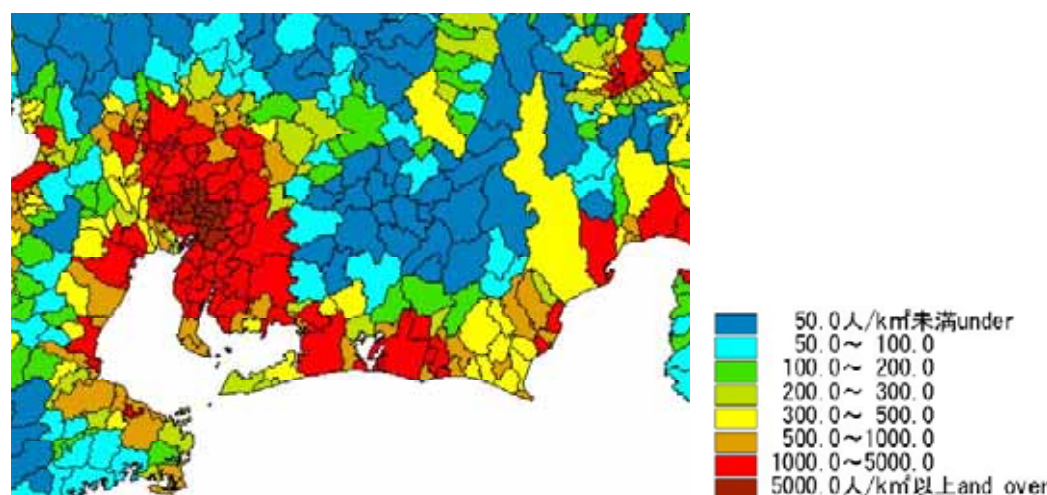
濃尾平野のゼロメートル地帯は、336 km²で日本最大となっている。



資料：国交省、愛知県河川課

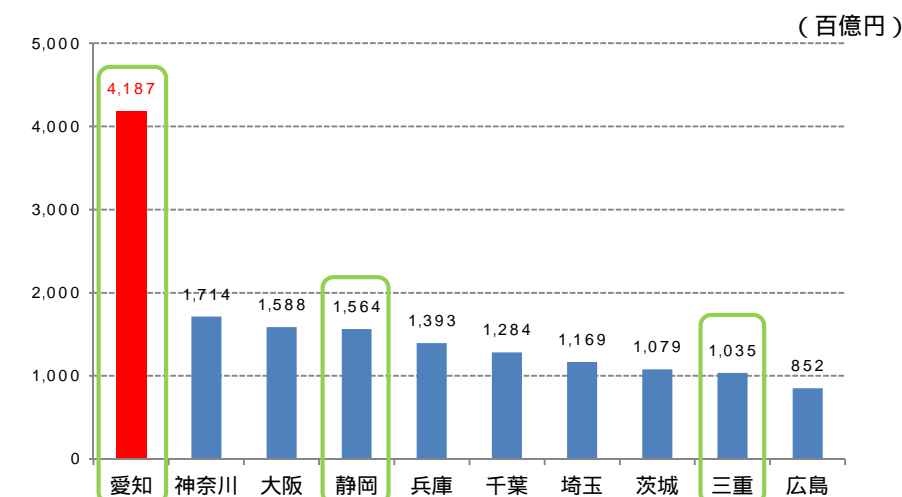
2. 人口が集中する大都市地域

東海4県の人口は、約1,511万人であり、全国の約11.8%を占めている。そのうち、愛知県の総人口は、約741万人（全国第4位）であり、全国の約5.8%を占める。また、人口密度は、1,435人/km²（全国第5位）であり、平野部、沿岸部の人口集中が顕著。 H22 国勢調査結果（東海4県：愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）



3. ものづくり産業の集積

愛知県は、平成25年の製造品出荷額等が41兆8703億円で、全国の14.4%を占め、昭和52年以降37年連続で全国1位。さらに、静岡県、三重県も上位10県にランクされており、中部圏は我が国を代表するものづくり圏域として、産業が集積。



都道府県別製造品出荷額等の比較（上位10県）
出典：平成25年工業統計速報

4. 国内外との物流ネットワークの要

愛知県発の貨物年間出荷量は日本1位。貨物地域間流動は、関東 - 中部間が全地域間の11.6%、近畿 - 中部間が9.2%を占めている。 2010年物流センサスより

名古屋港の平成25年の輸出額は全国1位、輸入額は全国3位。貿易収支は、全国で過去最大の11.5兆円の赤字となるなか、名古屋港は、5.8兆円もの貿易黒字を生み出した。

都道府県別年間出荷量 TOP10
(年間調査 単位：千トン)

順位	発都道府県	出荷量	構成比
1	愛知県	203,532	7.9%
2	千葉県	177,991	6.9%
3	神奈川県	145,410	5.6%
4	大阪府	141,247	5.5%
5	北海道	117,195	4.5%
6	福岡県	112,070	4.3%
7	東京都	107,857	4.2%
8	茨城県	105,620	4.1%
9	兵庫県	101,686	3.9%
10	埼玉県	87,159	3.4%
	全国計	2,590,111	100.0%

出典：2010年物流センサス

平成25年分全国港別貿易額順位（上位5港）(百万円)

順位	港・税関名	輸出額	前年比	全国比
1	名古屋	11,058,377	114.3	15.8
2	成田空港	7,857,442	100.2	11.3
3	横浜	6,747,976	99.6	9.7
4	東京	5,473,748	116.8	7.8
5	神戸	5,216,485	104.1	7.5
-	全国計	69,774,193	109.5	100.0

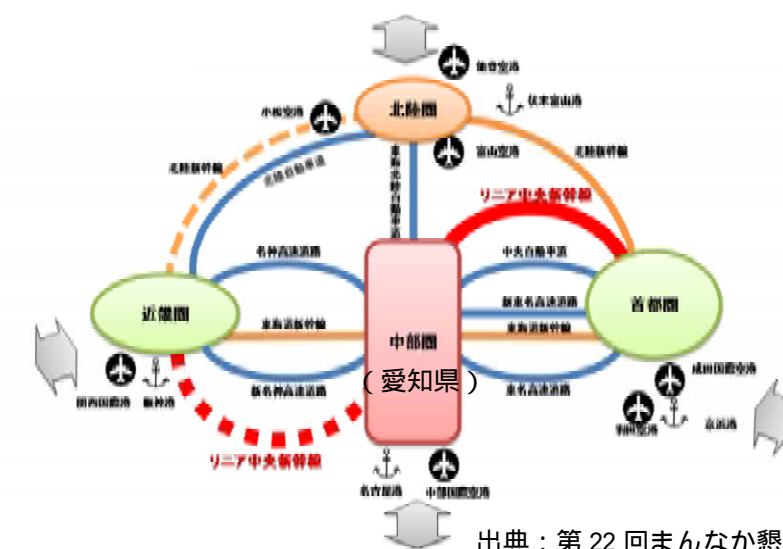
順位	港・税関名	輸入額	前年比	全国比
1	成田空港	10,986,716	116.5	13.5
2	東京	10,039,199	118.7	12.4
3	名古屋	5,251,950	113.2	6.5
4	大阪	4,855,847	116.4	6.0
5	千葉	4,792,932	117.4	5.9
-	全国計	81,242,545	114.9	100.0

貿易額は、関税法施行令第1条別表第一及び第二に基づく開港又は税関空港を管轄する税関官署の貿易額を開港又は税関空港の貿易額として掲載。出典：税関HP「全国順位表データ」

貿易収支
全国
11兆4,684億円
名古屋港
5兆8,064億円
貿易収支は、輸出額から輸入額を差し引いた額。

5. 国土軸の結節点

愛知県は、リニア中央新幹線、東海道新幹線、新東名・新名神高速道路、東海北陸自動車道等の高速交通ネットワークの結節点であり、東西南北交通の要衝として、我が国の社会・経済活動を支える重要な地域。

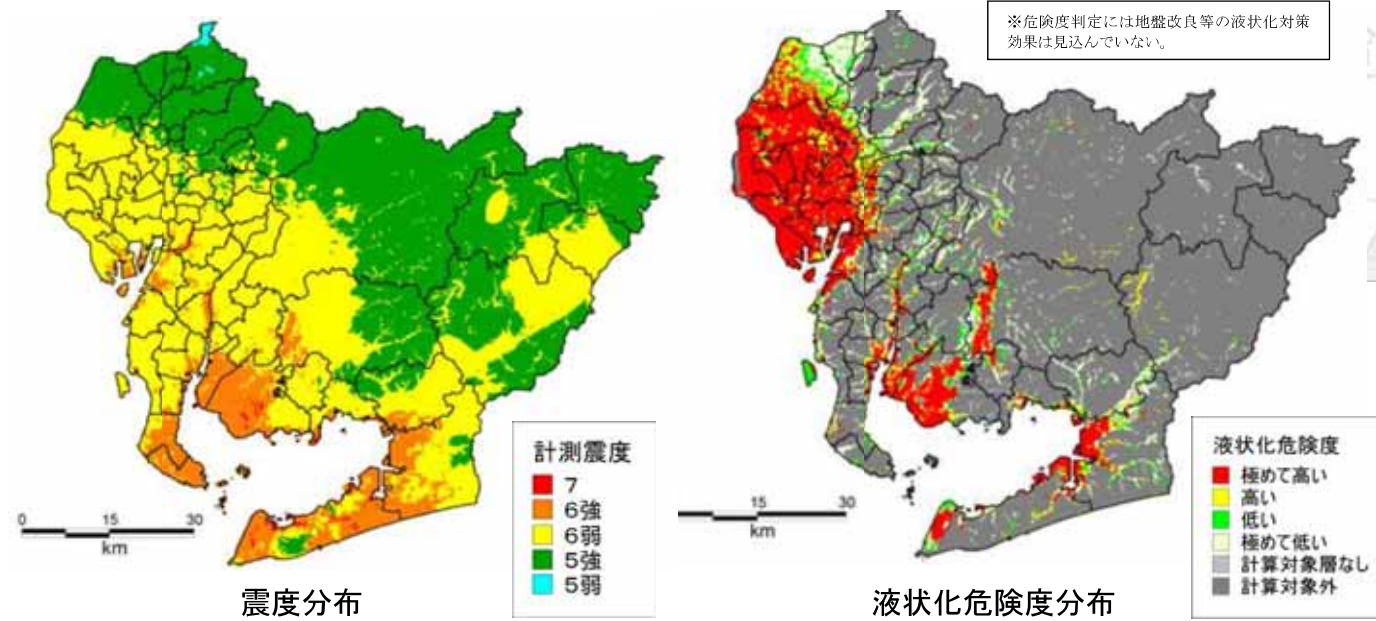


出典：第22回まんなか懇談会

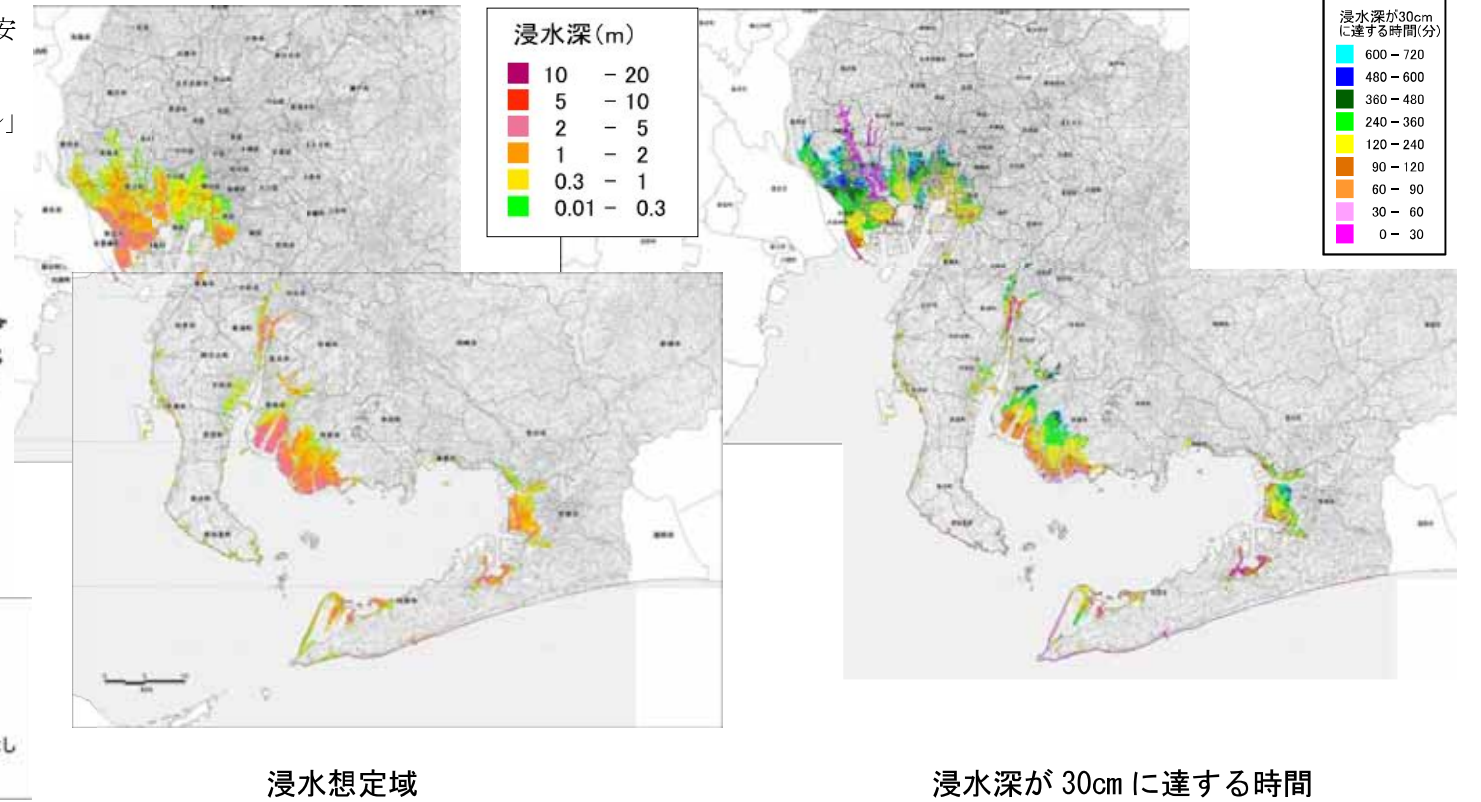
愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査（平成 26 年 5 月）

過去地震最大モデル

- 南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの（宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の 5 地震）を重ね合わせたモデルである。
- 本県の地震・津波対策を進める上で軸となる想定として位置付けられるものであり、「B 理論上最大想定モデル」の対策にも資するものである。



過去地震最大モデルの堤防等の条件（土堰堤）：50%又は75%沈下
 ※東海・東南海地震（愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査 H15.3）に対し耐震性を有している箇所および液状化危険度が小さい箇所について50%沈下、それ以外は75%で想定。

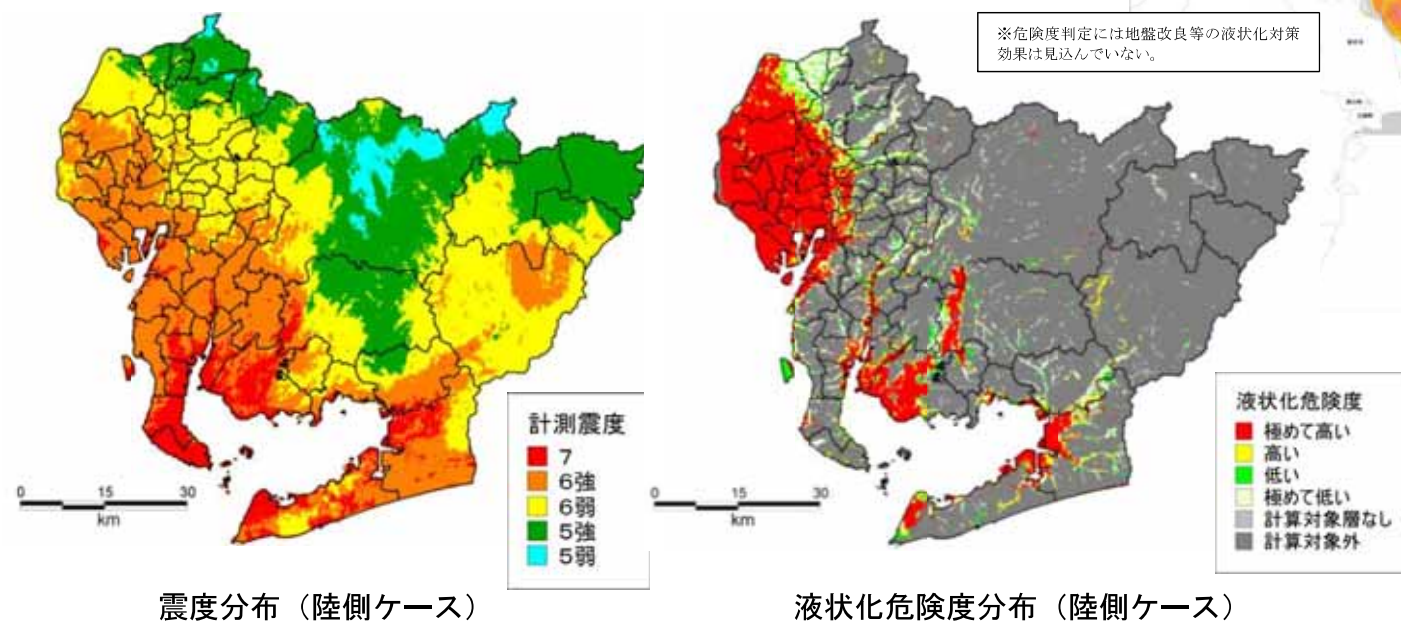


浸水想定域

浸水深が 30cm に達する時間

理論上最大想定モデル

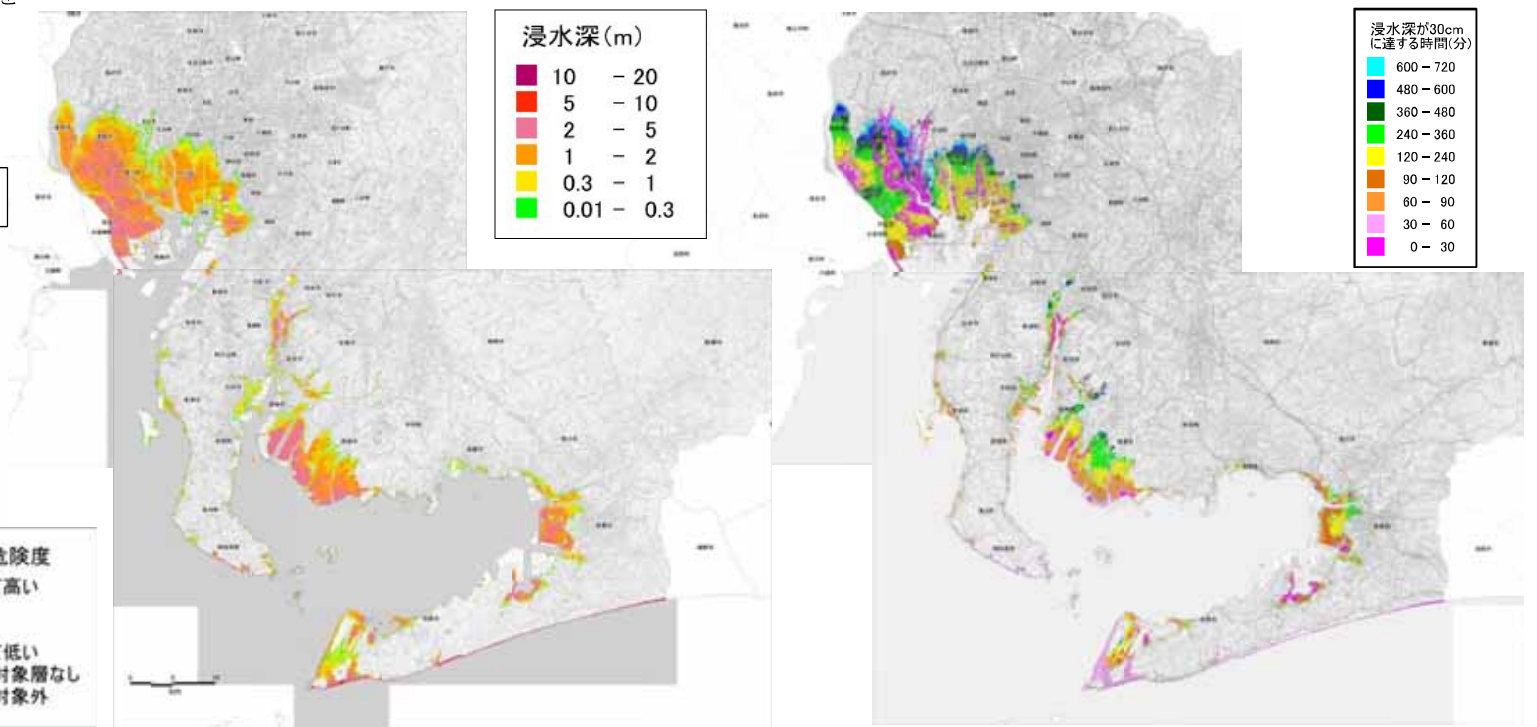
- 南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定。千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものである。
- 本県の地震・津波対策を検討する上で、主として「命を守る」という観点で補足的に参照するものである。



震度分布（陸側ケース）

液状化危険度分布（陸側ケース）

理論上最大想定モデルの堤防等の条件（土堰堤）：75%沈下
 ※すべての箇所について、75%沈下で想定。



浸水想定域（津波ケース①）

浸水深が 30cm に達する時間（津波ケース①）